

編 集 後 記

五月一生物は一せいに新たである。日本醫師會と合同第1回の週期的第13回日本醫學會總會の一大繪巻も櫻花の盛と共に既に過ぎし思い出となつたが、デット窓外の緑を眺めていると、醫界の新たな發足の踏音が聞えて来るようである。

天皇陛下御臨幸のあの總會場の壯觀さ、田宮會長、天野文相、南原總長のあの熱烈眞摯な醫界、醫學會の激勵、特別講演初め5000の演題の下に花を競う同僚の眞摯な姿——何れもわが國醫人の眞の姿が、今年からこそ、改めて新たに世に顯われるのであるという印象と自信を與えられたのは、只に編者のみではないだろう。

醫界と醫學會との大同團結こそ、醫學、醫術、醫道の三位一體の實を上げ、新生日本醫人の大道を開いたといふべきであろう。醫療濟生の中心に位置する醫人の向上は、病院にも新たな息吹きを與え、病院の發展向上は、期して俟つべきものがあると信ずる。

尙更に直接御同慶に存することは、本誌記事に報告せられたように、4月3日、各地病院協會代表者が東京病院會館に集まれ、日本病院協會設立を決せられた事である。常々本誌は、病院の發展に資することを念願して來たが、全國病院が大同團結をなせる第一歩を踏み出されたことに對し、萬腔の賛同を呈すると同時に圓滿な成立を祈念してやまない次第である。唯願わくば、單なる同業者組合的存在でなく、國民の福祉に寄與する爲、公私病院相携えて、崇高な理想に向つて、力強く踏み出して行かれることを期待し度い。本誌は及ばず乍らその御活動の爲に利用されることを喜んで申出でたい。

本誌には、アメリカの病院の父ともいわれるべき Dr. Mac. Eachern について、實際に先生の聲に接して來られた守屋編集委員に記事を書いて頂きました。寫眞と共に皆様の興味をそゝつた事と思います。その他前號以來掲載の高木氏の病院齒科は、從來日本の病院齒科が殆ど外來にのみ利用せられたのについて、反省の資となるものでしょう。吉田氏等の塵芥處理の科學的研究は病院幹部が氣がついてはおつても、つい裏の方のことなのでなおざりにされ易い問題で、この資料は大變お役に立つものと思います。

今國會では、70年來の問題である醫藥分業に關する法案が政府より提出され地方選舉後再開と同時に審議が始まりましたが、病院には最も直接の關係にある助産保法の改正法案が兩院を通過し、更に診療エックス線士法が參議院を通過しましたので、これらにつき次號に紹介致す積りです。尙結核豫防法の通過に關聯して、結核療養所(300床)のモデル設計が病院建築委員會で研究中ですので、出來次第早く發表させて頂く豫定です。御期待されたい。

尙次號からは、Hospital の外 Modern Hospital, Hospital Management 誌からも、御参考になる記事をそれらの欄を設けて、抄録を掲載して行く豫定です。

大學病院改善委員會が、厚生省、文部省協力の下に、1月から文部省で發足し、數回の會議を開いた結果、4月3日に大學病院改善要綱を決定しました。これは、ビッグニュースですので、次號にはこれについての座談會を試みる積りです。(編者)

品質を
誇る!

各種化膿性皮膚疾患治療剤

モナフラシン

5-ニトロ-2-フラフルヒドセミカルバゾン



カルシウム剤

カルチコール

國民醫藥品集 グルコン酸石灰注

消化性潰瘍治療剤

イスウルクス

塩酸ヒスチジン4% 溶液

製造發賣元

大阪 大日本製藥株式會社 東京